



ファインスチール

Winter 2014

冬



CONTENTS

01 特集1

ファインスチールを使った **建築設計例** の「^{いま}今」

03 特集2

ファインスチールWEBマガジンの
アクセス方法およびオプション機能解説

05 ファインスチールを使った 建築設計例 308

風景に沿う部屋

散りばめられたコージー・コーナー

設計：西田 司 + 稲山 貴則 / オンデザイン

09 板金工事に関する用語集その26

11 建築めぐり

テーマ建築 15 丸山雅子

13 街でみかけるファインスチールの施工例 その17

一般社団法人 日本鉄鋼連盟

ファインスチールを使った 建築設計例の「今」

いま

過去に「ファインスチールを使った建築設計例」でご紹介した物件の屋根材および外壁材が、今現在どのような状態を保っているかを、当時の写真と比較してご紹介します。

また、いつまでも美しく保つために、金属サイディングのメンテナンス方法もあわせてご紹介します。



2013年12月現在

2010年12月撮影時と撮影状況が異なるため、写真の角度などが若干異なります。ご了承ください。



a crooked house

曲がった家

設計：金 富雄 + 李 勝代

「a crooked house」は、施主の設計に対する要望として「楽しい家」をテーマに、「四角い箱はつまらない」「光が巡る空間」をキーワードにした「終の住処」として造られました。金氏・李氏は壁のあり方にこだわり、得意とする斜めの壁を用いた、広がりのある空間を目指し、外壁材・屋根材にコストパフォーマンスが良く、メンテナンス性に優れた施工時に融通がきくファインスチールを採用されました。上の2枚の写真をくらべてもわかるとおり、丸3年が経過しましたが、外観はほとんど遜色なく、右のアップ写真でもその良好さが確認できます。そこで、この状態を長く保つために右ページのメンテナンス方法をご紹介します。正しいメンテナンスは長期の性能維持を実現します。





■ 日本金属サイディング工業会 発行「金属サイディングをいつまでも美しく保つために」より 一部抜粋

メンテナンス(清掃)について

大気中に含まれる汚染物質は金属サイディングを腐食させる原因の一つです。表面を水洗いしてください。

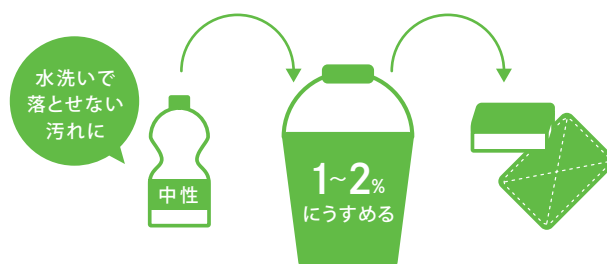
- 大気中には金属サイディングの腐食原因となる汚染物質が含まれています。自動車や工場より排出される排ガスや海岸地域での海塩粒子など様々な要因があります。最近では環境問題にもなっている酸性雨があります。
- 酸性度が強い雨水が壁面に接触し、湿潤を繰り返すことにより、酸性成分が濃縮され、表面塗膜の耐久性低下及び基材腐食の発生に至る場合があります。その防止のため定期的な清掃を実施してください。

水洗いの方法

金属サイディングについての汚れや埃を洗い落とししてください。その際、柔らかい布やスポンジで軽くこすって、洗い流してください。また水洗いで落ちない汚れ等は中性洗剤を1~2%に希釈して洗浄してください。十分に水洗いをし、乾いた布で水分を拭き取ってください。

【注意事項】

- アルコール、シンナー等の有機溶剤は使用しないでください。
- 中性洗剤以外の酸性またはアルカリ性洗剤、クレンザー等の研磨剤入り洗剤は使用しないでください。
- 金属たわし、ワイヤーブラシ等の硬い材質のブラシは使用しないでください。
- 高圧洗浄機は使用しないでください。
- 過度に強くこすりすぎないでください。
- 金属サイディングの表面にハシゴや脚立を直接立てかけないでください。



拭き取りについて	スポンジ・柔らかい布	金属たわし・鋭利な金属片 (ex:ワイヤーブラシ)
洗浄について	ホースの水掛け程度の水圧	高圧洗浄機

ファインスチールWEBマガジンの アクセス方法およびオプション機能解説

『ファインスチールWEBマガジン』が登場してから1年が経ちました。

あらためて、WEBマガジンのアクセス方法とオプション機能を解説いたします。

誌面は購読しているけど、WEBマガジンはまだ閲覧したことがないという方、この機会にぜひ『ファインスチールWEBマガジン』をご体験ください。



WEBマガジンサイトへのアクセス方法

- ①「ファインスチール」サイトのトップページを開きます。
- ②ページ中ほどにある「WEBマガジン」のボタンをクリックすると、下のWEBマガジンサイトトップページが開きます。


上記の他、下記URLを入力して直接、トップページへもアクセスできます。
<http://www.catalog.finesteel.jp/>

●WEBマガジンサイトトップページ

最新号をピックアップし、バックナンバーは「10月発行」→「7月発行」→「4月発行」→「1月発行」の順に年度毎に掲載。目次部分クリックで意中のページをダイレクトに表示します。



●キーワード検索



- ①検索したいキーワードを入力し「検索」ボタンをクリック。
- ②キーワードが含まれているページが「検索結果」としてサムネイル表示されます。
- ③キーワードが含まれていない号は薄く表示されます。

●クリック検索

「特集」「ファインスチールを使った建築設計例」「街でみかけるファインスチールの施工例」が年度毎に表記されるので、目的のページに素早くアクセスできます。

クリック検索

< 特集

< ファインスチールを使った建築設計例

< 街でみかけるファインスチールの施工例

➡

特集

ファインスチールを使った建築設計例

街でみかけるファインスチールの施工例

2013年

10月発行

7月発行

4月発行

1月発行

2012年

10月発行

7月発行

4月発行

1月発行

● ファインスチールを使った建築設計例



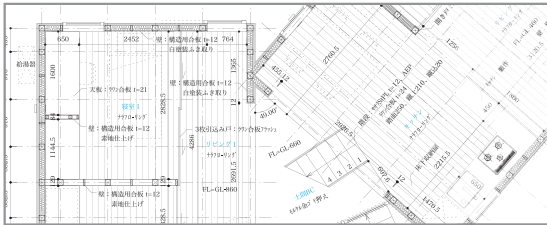
● 外観CGイラスト

ヨコ方向360度・タテ方向180度、どの方向からも建物を確認でき、自在に回転可能。



● PDFデータダウンロード

紙面では細かくて読めないような小さな文字も、PDFデータをダウンロードして拡大表示で閲覧可能。



● 各部屋の内観写真

紙面で掲載しきれない内観写真も、WEBマガジンなら各部屋ごとに掲載が可能に。平面図のカメラマークをクリックで閲覧。



● 街でみかけるファインスチールの施工例



● スライド

掲載できなかった写真も、スライド機能により複数枚の掲載が可能(様々な角度から施工物件を閲覧)。



● Google Mapと連動

所在地の確認とストリートビューでの視認が可能。



WEBマガジン メールマガジン定期配信の登録方法

①こちらのメニューをクリックすると、下の配信登録フォームが表示されます。

②赤枠部分「氏名」「メールアドレス」「業種内容」の必須項目を入力し、「送信」ボタンをクリックしてください。
※さつかえなければ、「会社名」「部署名」「役職」も入力してください。

以上で登録完了です。登録後、最新号の発行日にメールマガジンが届きます。WEBマガジンならではのコンテンツが盛りだくさん、ぜひご登録ください。



ファインスチール
を使った
建築設計例 308

風景に沿う部屋

散りばめられたコージー・コーナー

設計：西田 司 + 稲山 貴則 / オンデザイン

(撮影：写真はすべて、鳥村 鋼一氏撮影©)

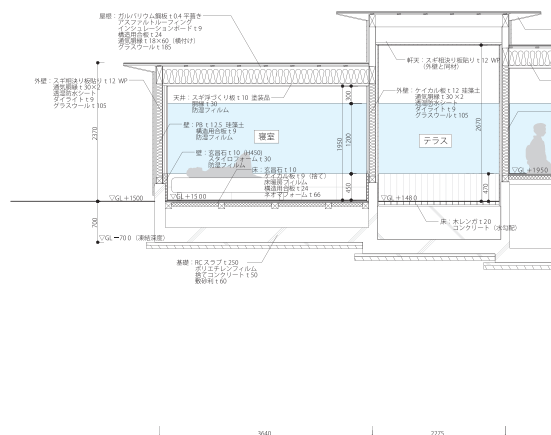
森に佇む週末住宅

敷地は長野県中軽井沢、緑豊かな別荘地の一角。生い茂る木々の合間に、小さな切妻屋根のボリュームが寄り集まるように連なる。この建築が、今回紹介する「風景に沿う部屋」である。都内に在住する施主夫婦2人と犬2匹が、休日をゆったりと過ごすためのセカンドハウス。施主夫婦が建築雑誌をみてオンデザインパートナーズの西田司氏と稲山貴則氏の建築に惚れ込み、設計を依頼した

という。

施主の要望は、住宅としての必要最低限の機能を取めたコンパクトな建築の中に、居場所をたくさんつくってほしい、というもの。この地域では景観条例によって屋根に勾配をつけることが義務付けられているため、存在感のある外観になりがちであるが、西田氏と稲山氏はボリュームを小さな単位に分割してそれぞれに小さな屋根をかけることで、圧迫感のないこじんまりとした外観に仕上げることに成功した。

風景に寄り沿う全長25mの水平窓





北東側から見る屋根。9つの切妻屋根が連なる。

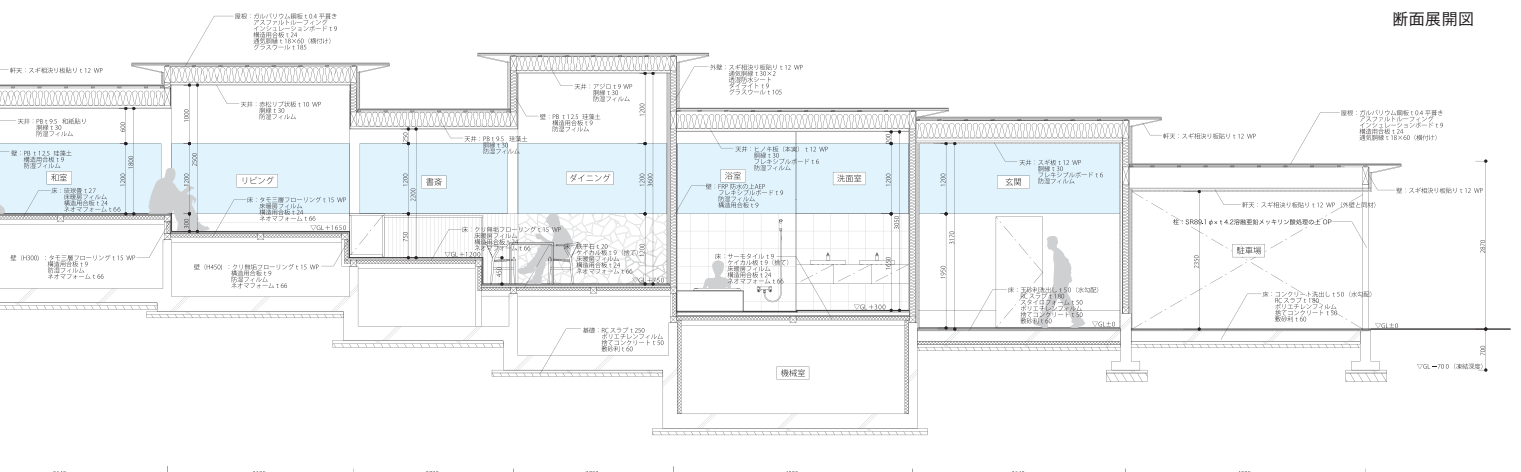
風景に寄り沿う水平窓

南側は大きく眺望をとるため、全長 25mの水平窓をとった。角度をつけて扇形に配置された各ボリュームは、朝日から夕日まで、日の差し込み方によってさまざまな表情を見せる。また、床を東向き斜面の敷地にあわせてひな壇状に配置したことで、内部から見た窓の高さが変わり、見えるものや視線にも変化が生じて周囲の風景との多様な関係性が生まれた。特に浴室は窓が高い位置に来るため室全体が明るく、小窓を開けると鳥の鳴き声も聞こえる施主のお気に入りの場所だという。

コージー・コーナー

設計の際に一番重視されたのが、家の中の随所に散りばめられたコージー・コーナー（お気に入りの場所）。明確に仕切られた部屋に決められた機能を当てはめていくのではなく、種々の行為に応じて人が気ままに居られる場所がたくさん欲しい、というのが施主の要望であった。

きめ細やかに調整されたボリュームの角度や床のレベル差、造り付けられた家具、そして素材の違いによって、読書や食事、料理などさまざまな過ごし方に応じた心地良い居場所がデザインされている。



断面展開図



手前から和室、リビング、書斎、ダイニング、キッチンと連なる。

照明計画も部屋全体を均一に照らすのではなく、人のいるスポットごとに小さな照明を設け、場所の性格に変化を与えた。

畳の和室で気軽に寝転んでくつろいだり、床のレベル差によって生まれた段差に腰掛けて読書をしたり、半屋外のテラスで森の空気を感じたりと、生活の中でお気に入りの場所を探し、選びながら、新たな価値を見出すことができる。

素材へのこだわり

家の内部を見通すと、壁、床、天井のそれぞれにさまざまな仕上げが組み合わせられており、素材へのこだわりをうかがい知ることができる。床と同じ板材を壁下部にも巡らせて囲まれたような空間をつくったり、天井の低くなる場所へ和紙を用いてテクスチャを見せたりと、使われ方も丁寧に選定されている。設計は2011年4月、

東日本大震災の混乱が収まらぬ中で始まった。施主はこの家を建築することに葛藤も感じたが、建物を建てることで経済を通して復興支援をしたいと考え、できるだけ国産材を用いることにこだわった。施主の意向に基づいて材料選定が行われ、構造材をはじめ内装、造り付け家具にも、長野のカラマツや秋田のクリなどが用いられた。材料を探す中で、そして実際に暮らす中で、日本の素材の良さを改めて実感しているという。

デザインを支える ガルバリウム鋼板

テンポよく連なる切妻屋根もまた、この建築の大きな魅力の1つである。デザイン上屋根がよく見えるため、色のバリエーションの豊富なガルバリウム鋼板を使うことを早い段階から考えていたという。シンプルなガルバリウム鋼板の平葺

き屋根はスギ材目地の外壁と調和し、森に溶けこむような穏やかな表情の外観に仕上がっている。

いくつもの小さい屋根が重なり合うデザインのため、取り合いの難しさに追従できる加工性の良さも、ガルバリウム鋼板が選択された理由の1つであった。細かな納まりを職人と共に現場で検討し、屋根と壁の取り合い部分も丁寧に納めた。角度をずらしたプランのため、施工の難しい、直角でない部分が数多く存在したが、職人が1枚ずつ作ったものを現場で調整して仕上げた。稲山氏によると、特に熟練した職人はその場で加工の工夫を提案するなど、臨機応変に対応してくれたという。優れた建築の裏にある、職人の確かな技術と、建築家との信頼関係が伺われた。

ガルバリウム鋼板の今後について西田氏は、現状では断面の露出する小口は腐食しやすいため仕上げに気を使っているが、現場で

コーティングできる塗材やノウハウが整えば、建築表現の可能性もより一層広がるのではないかと語り、素材に期待を寄せた。

自然の中で、 生活の豊かさを享受する

西田氏によると、ここ数年間で、別荘を持つ人の考え方が変わってきているという。以前は別荘というと、非日常のきらびやかな過ごし方をするための場所というイメージが強かったが、最近は、都会での慌ただしい生活の中で忘れがちになる日常生活本来の豊かさを、別荘に求める人が増えてきているというのだ。

「風景に沿う部屋」の施主夫婦もまた、利便性や機能性から都内に自宅を構えつつ、QOL (quality of life、日常の価値) を軽井沢の家に求めた。もともと旅行を趣味とし

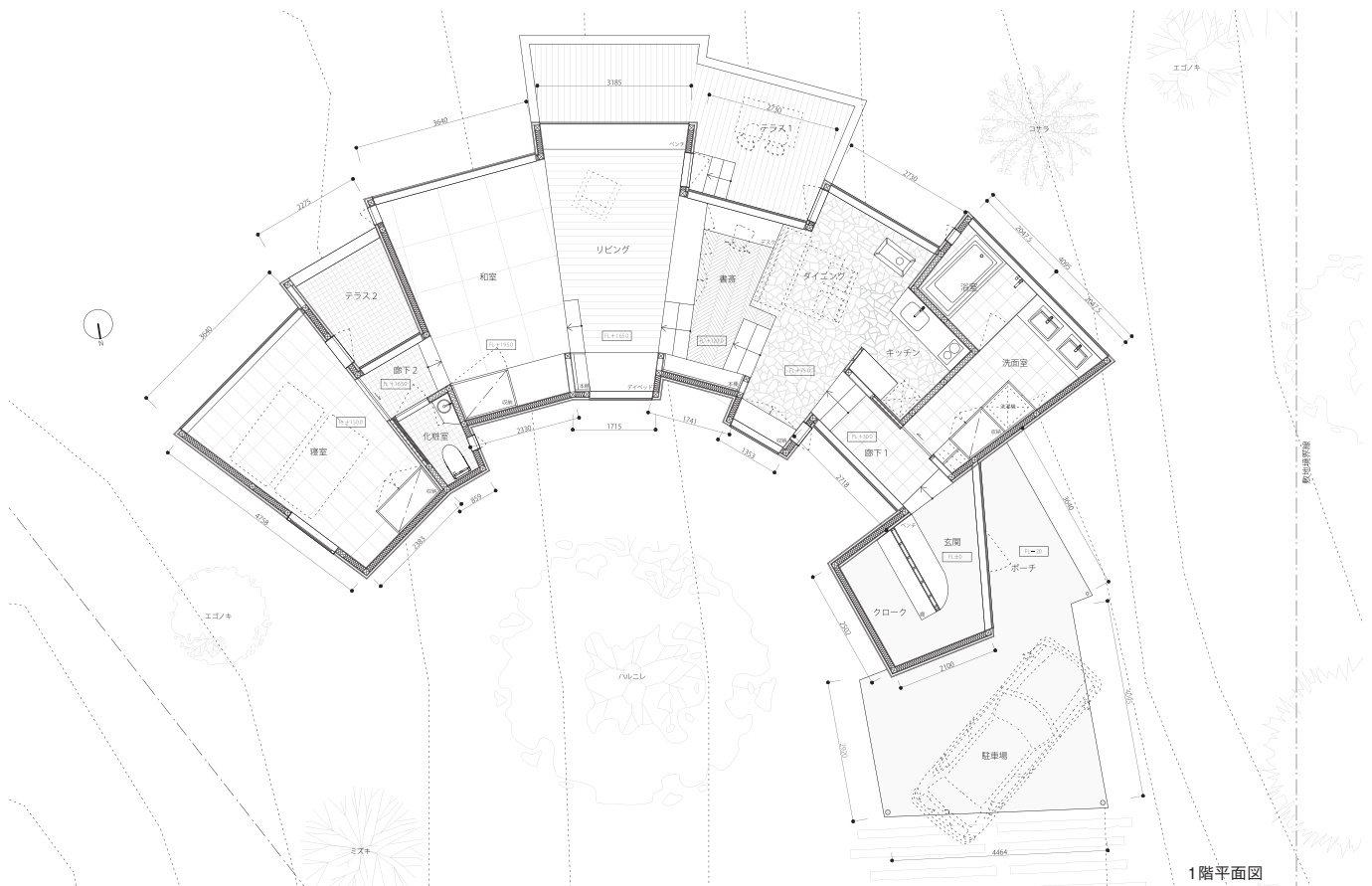


ダイニングから書斎、リビング、和室まで見通す。

ていた施主夫婦であるが、旅行で短期間滞在するだけではその土地について得られる知見に限界を感じたという。一つの場所に通って生活を営むことで、その地の価値や楽しみ方をより深く知ることができるのでは、と考え、軽井沢に

別荘を持つことを決意した。

鳥の声や木々の表情など、訪れるたびに新たな発見がある。「風景に沿う部屋」で得られたさまざまな体験を通じて、この地は施主夫婦にとっての第二の故郷となっていくことだろう。



1階平面図

設計：オンデザイン／西田 司 + 稲山 貴則

株式会社オンデザインパートナーズ／〒231-0007 神奈川県横浜市中区弁天通6-85宇徳ビル401

[tel] 045-650-5836 [fax] 045-650-5837 [e-mail] nishida@ondesign.co.jp [URL] http://www.ondesign.co.jp/

レポーター：東京大学 大月研究室 泉谷 春奈(M2) 久寿米木 真子(M1)

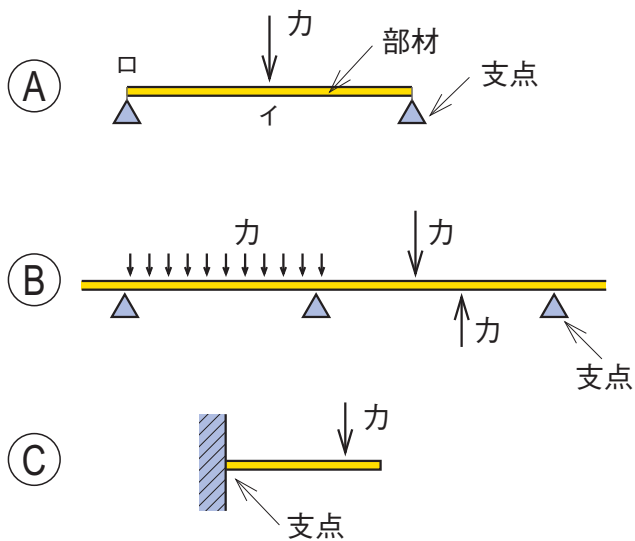
① 曲げモーメント [まげもーめんと]

棒状または板状の部材を、ある間隔の2点もしくはそれ以上の点で支え、部材に力を加わえると、部材は力のために力の方向に曲がる。そのとき部材は力に対してそれを支えるよう抵抗する。下図のような状態である。

なおこのとき力を荷重、支える点を支点、部材を梁という。

の場合、例えば①図の梁のイの部分、口部分の支点の支える力（反力）によって回転させようとする作用を受ける。この作用を曲げモーメントという。折板を屋根に葺いて、その上に雪が積れば折板には曲げモーメントが加わる。

曲げモーメントの大きさは、力と回転の中心点から力の作用点までの距離の積で表わされる。



② 断面2次モーメント [だんめんじもーめんと]

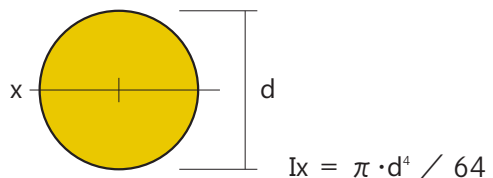
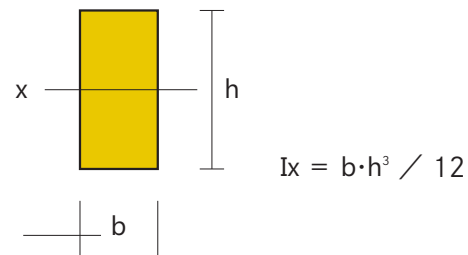
折板や梁などの部材が荷重を受けたとき、部材は支持点と支持点の間でたわみが起こって、曲がります。断面2次モーメントはこの曲がりの程度を表わす一つの数値です。この値は断面の形状や寸法によって異なり、大きな寸法の部材ほど大きくなります。しかし、部材の材質の違いは関係ありません。

断面2次モーメントは折板や梁のたわみ量を計算で求める場合に用います。例えば一つの屋根下地の上

に折板を葺くとき、A・Bの折板のどちらがたわみが大きいかの判断は、A・B両者の断面2次モーメントが大きい方がたわみが小さくなります。

断面2次モーメントを計算で求めようとする場合、H形鋼や鋼管などのような部材は比較的容易ですが、折板は板厚が断面寸法に対して薄いため、計算だけに頼るのは危険です。簡単な形の断面の計算式は次の通りです。

断面2次モーメントは通常 I_x の記号で表わし、単位は cm^4 です。なお屋根のカタログに単位を cm^4/m と表示されていますが、これは折板を並べた方向1m当たりの値を示し、折板耐力の比較や計算する場合に便利になるようにしています。



③ 許容曲げモーメント [きょようまげもーめんと]

数多くの種類と寸法の折板が市場に出ていて、形状・寸法によって無数の断面2次モーメントと断面係数が存在します。あるものは十分な曲げ耐力を発揮しますが、一方では常識的な荷重段階に到達する前に、折板が部分的に変形し、そのために破壊するものもないとはいえません。

このように千差万別の性能のすべてを力学的に解明することは不可能な状況です。そこで、上のような性質を加味し折板に加わる曲げモーメントの大きさを制約しようとする考え方があり、折板のJIS規格や鋼板製屋根構法標準に盛り込まれています。

この方法による場合は、許容曲げ応力度（折板は

1400kgf / cm² でした) は決められず、その結果、当然ながら断面係数は不要となります。

実態としては、曲げ耐力試験の結果から、あらかじめ安全率で除した許容曲げモーメントが各折板の各板厚ごとに与えられることとなります。

こうすることによって、複雑な力学的性質をすべて包括して、容易に曲げ耐力性能をつかむことが出来るという利点があります。

〈参考文献〉

日本工業規格 JIS A 6514-1990 「金属製折板屋根構成材」
鋼板製屋根構成法標準 SSR 92 1992年9月 亜鉛鉄板会発行

4 断面係数 [だんめんけいすう]

梁や桁などの部材が荷重を受けたとき、部材内には荷重に抵抗する力が生じますが、これを応力といいます。断面係数はその応力の分布を知ることの出来る係数です。

部材が強いか否かを判断するとき、部材の断面係数値が大きい程部材は強いこととなります。

断面係数は、断面寸法がわかれば計算でも求められます。もし断面 2 次モーメントがわかっているならば、断面係数は高さの 1/2 で断面 2 次モーメントを除して得られます。矩形と円形断面の計算式は次の通りです。

矩形 $Z_x = b \cdot h^2 / 6$ (cm³)

円形 $Z_x = \pi \cdot d^3 / 32$ (cm³)

折板の場合は、計算値と実験値とに大きな差があるため、改定された現在の折板 JIS では断面係数を用いない方法となっています。断面係数系は通常 Z_x で表わされ、単位は cm³ です。

5 断面2次半径 [だんめんじはんけい]

構造部材の断面のある基準とする軸 (通常 X 軸や Y 軸とします) に対して、次の式で求め、部材が圧縮力を受けたとき、部材の座屈の度合いを表わす数値です。

部材の座屈応力度を σ_{cr} とすると

$\sigma_{cr} = \pi^2 E / (1 / i)^2$ となります。

ここに、 l は部材の長さですが、この場合部材の両端の状態が変わります。 E はヤング係数です。例えば、山高 170mm、厚板 1.0mm、働き幅 300mm の折板材の I_x を 770cm⁴ / m とすると、折板 1 本当たりの

I_{xu} は

$I_{xu} = 770 / 3.33 = 231.2\text{cm}^4$ / 本となるので

$i_x = \sqrt{I_{xu} / A} = \sqrt{231.2 / 6.1} = 6.15\text{cm}$ となります。

なお折板葺き屋根の場合、普通の屋根では折板材に圧縮力が加わる事はほとんどありません。従ってこの断面 2 次半径を必要とすることはありません。まれに特殊な使い方をして圧縮力を生ずる場合は当然必要となります。

〈参考文献〉

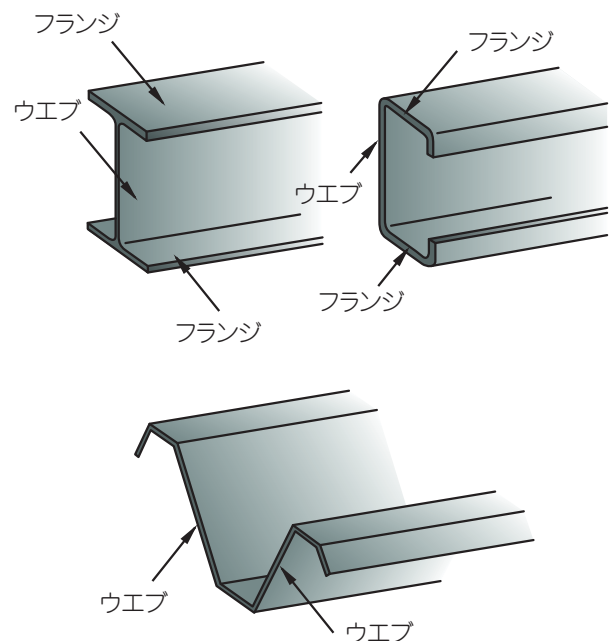
鉄骨の構造設計 藤本 盛久 編著
1988年5月20日 技報堂出版発行
建築用語辞典
昭和51年9月20日 (株)技報堂発行

6 ウェブとフランジ [うえぶとふらんじ]

H 形鋼や溝形鋼さらには折板材などで、部材の高さを構成する部分をウェブといい、ウェブの上下に、ある角度で接した辺の部分をフランジと呼びます。両者の関係は、図を御覧いただければすぐに理解いただけるでしょう。

もしウェブとフランジが同じ厚さであったとき、フランジの幅がそのままウェブの高さが 2 倍になると、力学的には断面 2 次モーメントの値は 8 倍に、断面係数は 4 倍になります。又フランジの幅が 2 倍となり、他はそのままとすると断面 2 次モーメントと断面係数は、単に 2 倍にしかなりません。

それは、断面 2 次モーメントは高さの 3 乗に比例し、断面係数は高さの 2 乗に比例するからです。



テーマ建築 15

日本のブライダル施設と英国ブランド

工学院大学建築学部
藤森研究室

担当 丸山 ^{もとこ} 雅子

知る人ぞ知る、日本のブライダル業界はテーマ建築の宝庫である。結婚情報誌に掲載された全国の施設に関する記事を読むと、いくつか面白いことに気がつく。

例えば「本物」と「本格」が何となく使い分けられている。「本物の迎賓館」と言えば、婚礼施設として使用される以前から自治体や企業などの迎賓館だったものを指し、「本物の教会」と言えば、挙式専用ではなく、本物の神父や牧師がいて信者がいて定期的に礼拝が行われるものを指す。そして「本格」とは、規模が目立って大きなものや、内装が凝ったものによく用いられている。具体的には、海外の一流の工房にステンドグラスやパイプオルガンを特注したとか、アンティークの家具を海外で買い集めたとか、本物のアンティークの教会の備品、なかには建物を丸ごと海外から譲り受けたというものもある。



図1 那須ステンドグラス美術館(栃木県那須町、1999年)
セント・ミッシェル教会(1995年)に隣接して建てられた美術館。大中小3つの礼拝堂を内包し、それぞれにアンティークのステンドグラスがはまっている。

あるいは、挙式会場にはほとんど白かったり、ガラス張りで透明だったり、光が溢れて清らかなイメージのも

のと、それとは全く対照的に、ゴシック様式など西洋の古い教会建築の姿をまとい、むしろ薄暗く厳かなタイプのものがあること、後者はステンドグラスを最大のセールスポイントとすることが見て取れる。さらには両者をミックスしたようなものも見受けられる。

また、テーマを海外に求めるときには、フランス、イタリア、英国の三国が人気で、挙式会場についてはとりわけ英国の人気が高いことに気付かされる。

試しに結婚情報誌の昨年10月号に掲載された施設に限って調べたところ、海外からアンティークの教会の備品を移設したり、建物を丸ごと移築したというものが実に10件に1件の割合で見つかった。その大半はアンティークのステンドグラスを挙式会場に移設したというもので、移設される前の場所あるいは製作された場所が明らかにされているもの(116件)の国別内訳は、英国とアイルランドが圧倒的に多く(80件)、次点の米国(10件)、フランス(9件)、イタリア(8件)を大きく引き離している。



図2 セント・マーガレット教会(柏市、2001年)
イングランド、ノース・ヨークシャー郡のセント・マーガレット教会(1815年建設)からステンドグラス、パイプオルガン、説教壇、ベンチなど備品を譲り受けて移設したものを。

海外からステンドグラスを移設したといっても、その数や規模は施設によってさまざまである。小ぶりなものが2、3枚というものもあれば、美術館として公開できるほど多くのステンドグラスを収集したものもある。例えば「那須高原セント・ミッシェル教会」は、英国のある教会からステンドグラス、パイプオルガン、祭壇、聖書、ベンチ、扉などを譲り受けて作られた挙式会場で、同じ敷地には別棟で「那須ステンドグラス美術館」(図1)が併設されている。美術館は大中小3つの礼拝堂を内包し、それぞれ英国製を中心とするアンティークのステンドグラスで彩られている。その他挙式会場にステンドグラス美術館が併設されているものに、「セント・

ラファエロ大聖堂」(藤沢市)、「金沢モリス教会」、「伊豆高原ミッシェルガーデンコート」、「由布院聖ロバート教会」がある。



図3 グランドヴィクトリア湘南(平塚市、1999年)
スコットランド、ノース・エアシャー州のドレッジホーンチャペル(1877年建設)からステンドグラス、パイプオルガン、ベンチ、シャンデリアなどの備品と壁材を譲り受けて再現したもの。

またステンドグラスだけでなく、上述の「セント・ミッシェル教会」のように、教会の備品を多数移設したものがある。「仙台セント・ジョージ教会」や「セント・マーガレット教会」(柏市)(図2)では、移設元である英国の教会の姿を模して新築した中に、ステンドグラスをはじめとする備品を一切譲り受けて設置したという。「グランドヴィクトリア八王子」や「グランドヴィクトリア湘南」(平塚市)(図3)では、外壁材も運んで、元の英国教会を再現したという。その他、英国からかなり本格的な移設や移築が行われたものに「オール・セインツ ウェディング」(郡山市)、「シャロンゴスペルチャーチ前橋」、「キャメロットヒルズ」(さいたま市)、「麻布セント・メアリー教会」、「聖マリア教会」(福井市)、「セント・ジョージ教会」(名古屋市)、「京都セントアンドリュース教会」、「大阪セントバース教会」などがある。

移設元となった建物はほとんどが無名なので、名前を聞いてもちんぷんかんぷんである。唯一の例外は「アルバート邸」(前橋市)(図4)で、ここにはなんと、ロンドンの「ロイヤル・アルバート・ホール」(1871年竣工)の扉が移設されている。ホールはヴィクトリア女王(在位 1837-1901年)が亡き夫アルバート公に捧げた劇場で、二人は大変仲の良い夫婦であったことで知られる。ヴィクトリアとアルバートゆかりの品であれば確かに婚礼施設にふさわしいかもしれない。同ホールから改修時に取り外された6枚の扉を入手したことから、この施設の建設計画が始まり、ヴィクトリア朝をテーマに、レンガを英国に特注し、煙突などのパーツを輸入し、

アンティークの調度品を集めて室内を飾り、ヴィクトリア時代の邸宅を再現したという。

しかし一体いつの間に、英国の歴史的な建物や備品、工芸品などの文化財が日本のブライダル業界で重宝されるようになったのだろうか。早い例では「シャロンゴスペルチャーチ前橋」が1990年の開堂である。これは同社長が1987年に英国で朽ちかけた古い教会に偶然出会い、その全てを日本に引き取ることを決意したことから実現したもので、同様の試みはそれ以前にはなかったという。そしてそもそもは、1981年の英国チャールズ皇太子とダイアナ妃の結婚式、とりわけダイアナ妃の美しい花嫁姿と大聖堂での厳粛な挙式に社長がインスピレーションを受けたことに始まるのだという。



図4 アルバート邸(前橋市、2008年)
ロンドンのロイヤル・アルバート・ホール(1871年竣工)にあった6枚の扉が再利用され、ヴィクトリア時代の邸宅が再現されている。

日本で英国王室の結婚は、他のどの国の王族のものよりはるかに高い関心をもって受けとめられる。特にチャールズ皇太子とダイアナ妃の結婚式では、ダイアナ妃の美しいドレス姿に注目が集まり、日本の結婚スタイルに影響を与えたと言われる。そして今や故ダイアナ妃は伝説的存在である。だからこそ「ロックハート城」(群馬県高山村)には彼女の愛車と言われる車が、「パトリック・キソ・ガーデン」(町田市)には生家のパイプオルガンが、「エルセルモ熊本」には生家のステンドグラスが移設され大事にされている。

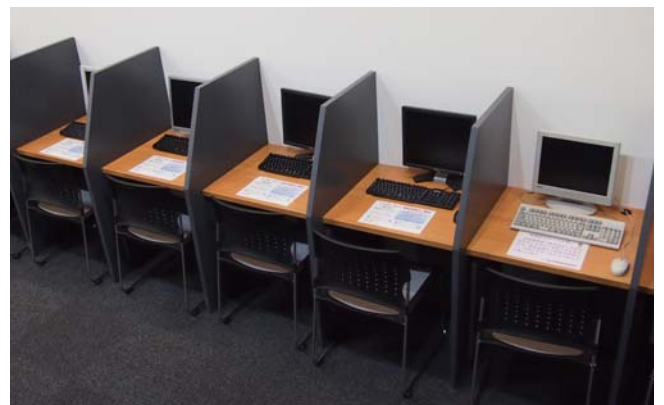
日本のブライダル施設における英国ブランドの強さは、英国王室の人気に負うところが大きいのもかもしれない。縁あって英国からはるばる渡来した文化財には、新天地の日本で大事に活用され続けてほしい。

街でみかける ファインスチールの施工例 その17



二条自動車教習所

1965年創立以来、40年以上の伝統と実績を重ねる「二条自動車教習所」は、京都市内の真ん中に位置し、通学に非常に便利な自動車教習所として親しまれている。2011年8月に立替え工事を完了した校舎は、屋根材・外壁材にガルバリウム鋼板を使用した外装の美しさはもちろん、内装や設備もさらに充実。女性に好評なパウダールームや更衣室を設置し、全教室で大型ディスプレイでの学科教習。技能教習の予約にはインターネット予約システムを導入し、携帯やパソコンからの予約が可能。教習は担任制で、指導員が技能の進度に応じて入所から卒業まで責任をもって管理。卒業後の事故率率は10年連続で京都府全体の平均値よりも低く、市内でもトップクラスの低率評価を受けている。2012年11月「第45回 指定自動車教習所・全国大会」で優良教習所の表彰を受賞。地域の交通安全教育センターとして、多年にわたり貢献している。





② 白鷺特殊鋼「桜島スチールセンター」

特殊鋼流通の白鷺特殊鋼（本社=兵庫県姫路市）は、大阪地区での販売力強化を目的に、新たな物流拠点として2011年11月、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの緑地と対面した敷地に『桜島スチールセンター』を開設。延床面積3,237㎡、屋根材・外壁材にガルバリウム鋼板を使用し、15億円を投資した当施設には、経営資源の効率化とグループ企業との連携および機能強化を図るため、大阪支店と精密機械加工を行うグループ企業「ハクロフォーシング」の大阪事務所を併設。顧客ニーズへのより一層の対応強化を目指している。



2012年秋号より 季刊広報誌「ファインスチール」の WEBマガジンが登場しました!

開放的な出窓
切り落とした部分を開口部にすることで、川を真正面に捉えるだけでなくその川上、川下も眺められる。眺望も大きく増した。さらにアイデアを膨らませて作り上げた形である。外部からの視線が遮られる気にならない。また、外壁の質感もこだわった。例えは構造的な面では、

必要な増量をして可能な限り、耐力壁を強化させた。この空間には最低限の大きさ(最低限の大きさ)を確保するために、全体を一つにさせる作りしつづきを感じることで、より空間とつながり、この出窓の内側は、

ので、2度折せずに仕上げてもらうこともある。よい職人と知り合えるのが大きな問題となる」と氏は語った。また「カシメ縁や重なり部分の僅かな隙間もガルバリウム鋼板の味。むしろ最近の成型品の吊子を取るための加工線が最終的なデザインの邪魔になる場合もある。毎回吊子の加工のないガルバリウム鋼板を探すことになるから、できれば線のあるものとする。両方を常に作ってもらえるような体制が広がると思う」と、最後に氏は施工性だけでなくガルバリウム鋼板の魅力と可能性について発言した。

緩やかに成れる
現在、地主には第二子が誕生し四人家族となった。当初は予定していなかった家族構成ではあったものの、子供たちがフロアの部分を十分に活用し、夢の広がる遊戯スペースとして利用している。
建築家と地主のこだわりから生まれたこの作品は、双方の想定を超える使い方をされ、今後もより面白みと深みを増していく。

↓ データのダウンロード

5P. 建築設計例 川に寄り添う家

ファインスチール
も知った
建築
設計例
303

川に寄り添う家
五角形のたすまい
設計：水石 浩太 / 水石浩太建築設計室

長年みなさまにご愛読いただいている季刊広報誌「ファインスチール」が、WEBマガジンとして2012年秋号より登場しました。

本誌では見れなかった建物の立体イメージや、掲載しきれなかった写真もスライドとしてご覧いただけます。さらに、バックナンバーの記事もキーワード検索できるなど、WEBマガジンならではのコンテンツが盛り沢山です。ぜひ一度、ファインスチールWEBマガジンを体験してみてください。

下記URLよりアクセスできます。

<http://www.finesteel.jp/>

ファインスチール

●外観CGイラスト



●スライド

